2020年3月期
業績概要

窪田　顕文

アンリツ株式会社
取締役
専務執行役員 CFO

2020年4月27日

東証第1部：6754
https://www.anritsu.com

Anritsu
envision : ensure

（ノート部記載なし）

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

Copyright© ANRITSU

(ノート部記載なし)

目 次

Ⅰ．事業概要

Ⅱ．2020年3月期　連結決算概要

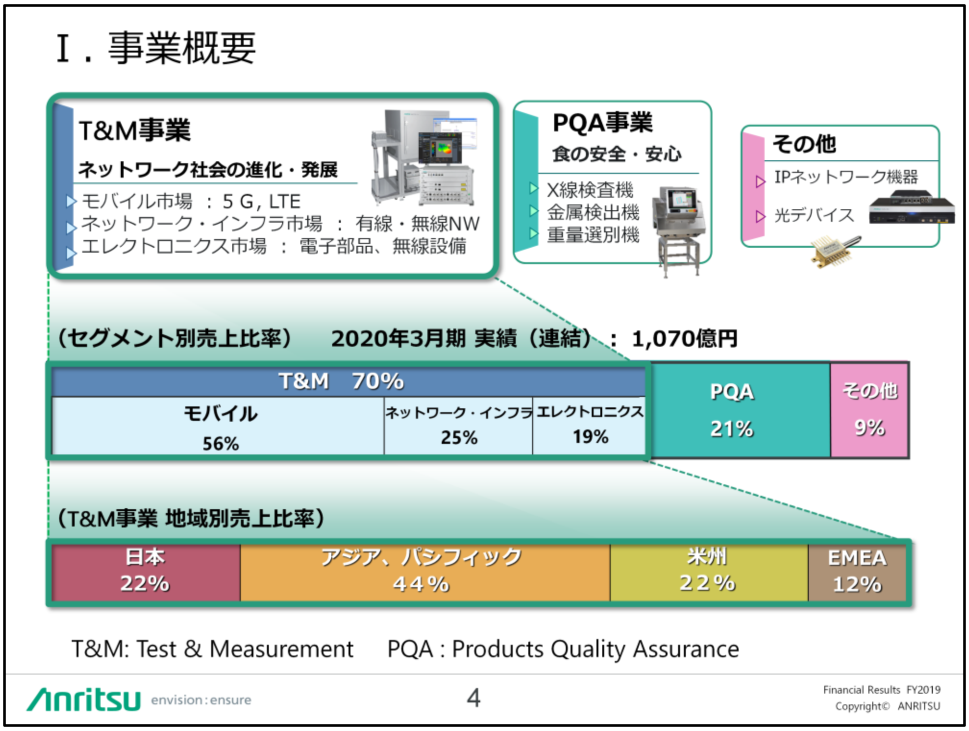
Ⅲ．2021年3月期　通期業績予想（連結）

Ⅳ．5Gサービスのロードマップと
当社の取組について

Anritsu envision : ensure　　3　　Financial Results FY2019

Copyright© ANRITSU

（ノート部記載なし）


Ⅰ．事業概要
T&M事業
ネットワーク社会の進化・発展
モバイル市場 ： 5 G, LTE
ネットワーク・インフラ市場 ： 有線・無線NW
エレクトロニクス市場 ： 電子部品、無線設備
PQA事業
食の安全・安心
X線検査機
金属検出機
重量選別機
その他
IPネットワーク機器
光デバイス
（セグメント別売上比率） 2020年3月期 実績（連結）： 1,070億円
T&M 70%
モバイル
56%
ネットワーク・インフラ
25%
エレクトロニクス
19%
PQA
21%
その他
9%
（T&M事業 地域別売上比率）
日本
22%
アジア、パシフィック
44%
米州
22%
EMEA
12%
T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance
envision : ensure
4
Financial Results FY2019
Copyright© ANRITSU

(ノート部記載なし)

Ⅱ-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

前年同期比増収、増益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
受注高	1,008	1,077	69	7%
売上高	997	1,070	73	7%
営業利益	112	174	62	55%
税引前利益	114	172	58	51%
当期利益	90	134	44	49%
当期包括利益	94	119	25	27%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

Anritsu envision : ensure　5　Financial Results FY2019
Copyright© ANRITSU

グループ全体の受注高は前年同期比7%増の1，077億円、売上高は前年同期比7%増の1，070億円となりました。営業利益は前年同期比55%増の174億円となりました。

当期利益は前年同期比49%増の134億円となりました。

Ⅱ- 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

T&M：5G開発需要は特にアジアで順調

（単位：億円）

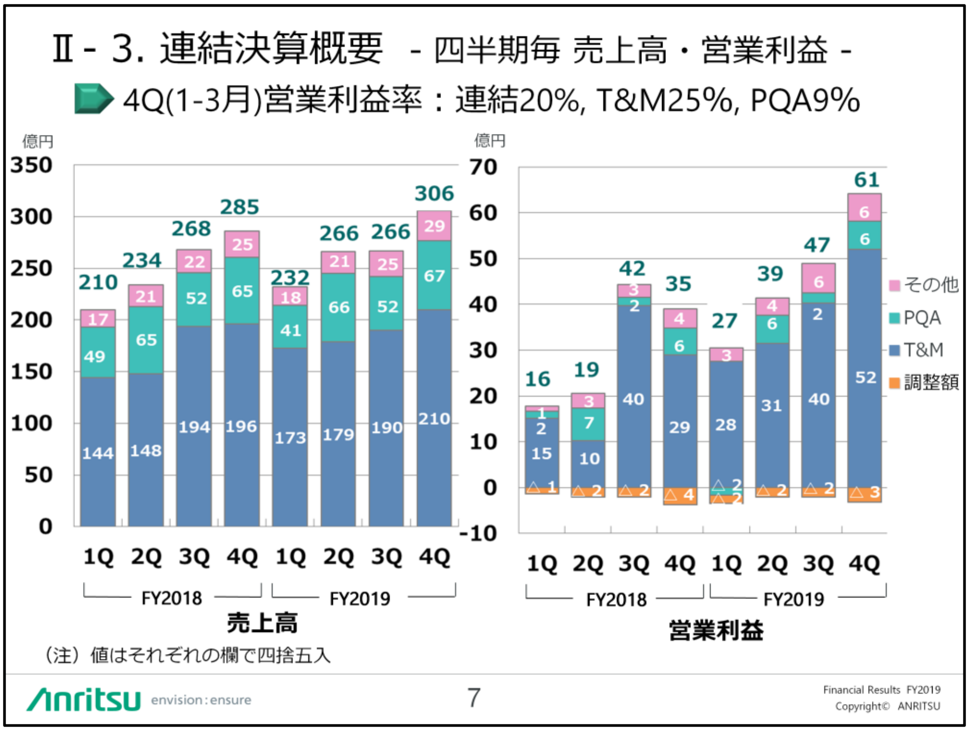
国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
T&M	売上高	682	752	70	10%
	営業利益	94	151	57	61%
PQA	売上高	231	226	△ 5	△2%
	営業利益	16	13	△ 3	△20%
その他	売上高	84	93	9	10%
	営業利益	11	19	8	66%
調整額	営業利益	△9	△9	0	-
合計	売上高	997	1,070	73	7%
	営業利益	112	174	62	55%

（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入
（注2）調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。
T&M: Test & Measurement　PQA : Products Quality Assurance

Anritsu envision : ensure　6　Financial Results FY2019 Copyright© ANRITSU

T&M事業において、第４四半期も特にアジアの5G開発需要が順調で、前年同期比増収増益となり、売上高は10%増の752億円、営業利益は61%増の151億円（営業利益率20．2%）となりました。

PQA事業において、第４四半期の業績は昨年の水準を上回りましたが、第1四半期の不振を補うまでには至らず、前年同期比減収減益となり、売上高は5億円減の226億円、営業利益は、3億円減の13億円になりました。



第４四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結　　61億円(営業利益率:　19．9%)

T&M　　52億円(営業利益率:　24．8%)

PQA　　 6億円(営業利益率:　 9．1%)

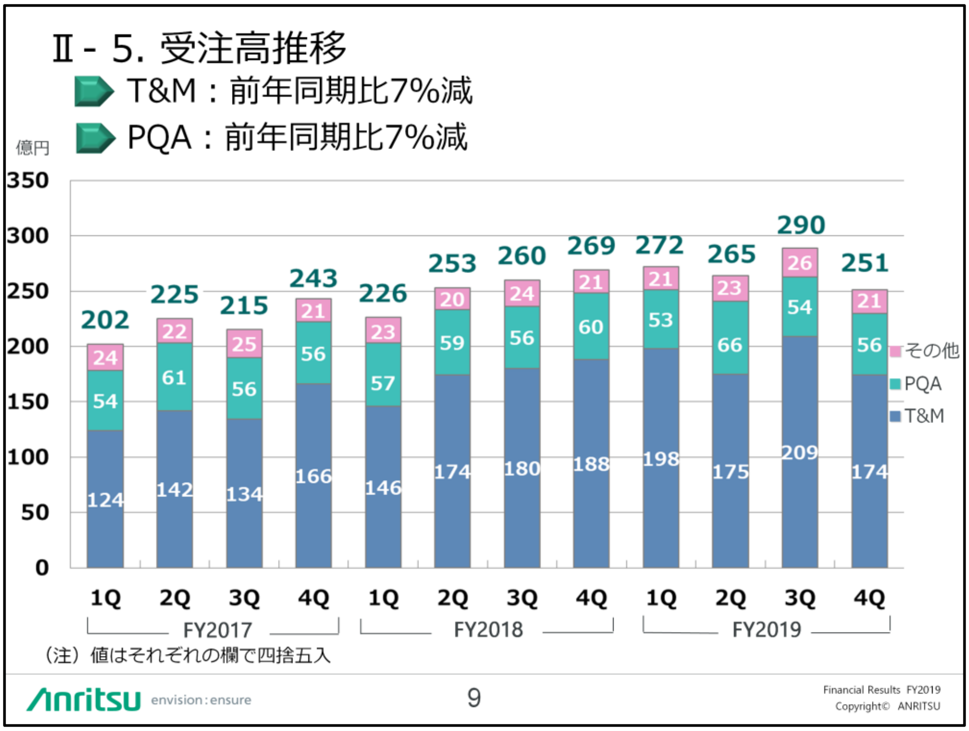
Ⅱ - 4. 事業別営業概況

セグメント		2020年３月期（4月-3月） の状況
T&M：5G商用化スケジュールが順調に進展		
モバイル	LTE	LTE-Aの投資は抑制・縮小が続く
	5G	5G開発の需要が順調に推移
Network Infrastructure		5Gインフラへの投資が拡大傾向
アジア		5G商用化に向けた投資拡大
米州		5Gサービスの今後のエリア拡充に注視
PQA：国内・海外とも食品市場の品質保証、自動化、省力化の投資が堅調		

T&M: Test & Measurement　PQA : Products Quality Assurance

Copyright© ANRITSU

(ノート部記載なし)

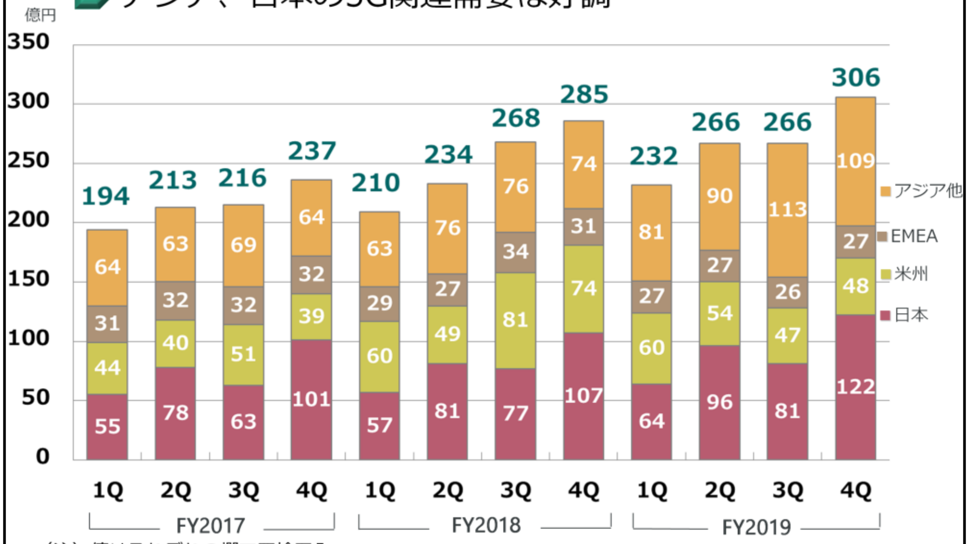


新型コロナウィルスの感染拡大の影響で、顧客の受注活動に制約が生じたため、T&M事業の受注高は、前年同期比14億円（7%）減の174億円、PQA事業の受注高は、前年同期と4億円（7%）減の56億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体で230億円（前年同期比5%増）、T&M事業では167億円（同4%増）、PQA事業では49億円（同8%増）でした。

Ⅱ - 6. 地域別売上高推移

アジア、日本の5G関連需要は好調

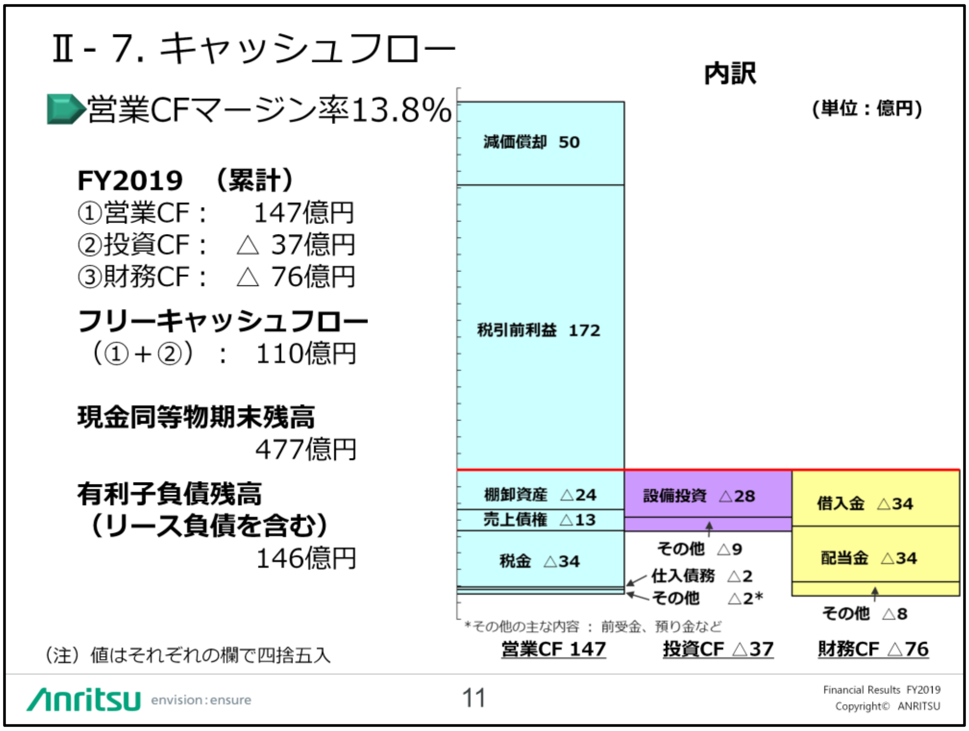


（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

Anritsu envision : ensure　　10　　Financial Results FY2019

Copyright© ANRITSU

（ノート部記載なし）



営業キャッシュフローは、147億円の資金獲得となりました。
投資キャッシュフローは、37億円の支出でした。
その結果、フリー・キャッシュフローは110億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、76億円の資金支出となりました。主なものは、長期借入金返済35億円、配当金の支払い34億円（期末配当分1株13.5円および中間配当分1株11円）です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より26億円増加の477億円となりました。

Ⅲ- 1. 2021年3月期 通期業績予想（連結）

新型コロナウイルスの影響により上期は市場が停滞

（単位：億円）

		2020/3期	2021/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,070	1,100	30	3%
営業利益		174	175	1	0%
税引前利益		172	175	3	2%
当期利益		134	135	1	1%
T&M	売上高	752	770	18	2%
	営業利益	151	155	4	2%
PQA	売上高	226	240	14	6%
	営業利益	13	18	5	40%
その他	売上高	93	90	△ 3	△3%
	営業利益	19	12	△ 7	△37%
調整額	営業利益	△ 9	△ 10	△ 1	-

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY19 為替レート　：1米ドル109円、1ユーロ=121円
FY20 想定為替レート　：1米ドル105円、1ユーロ=120円

Anritsu envision : ensure　12　Financial Results FY2019
Copyright© ANRITSU

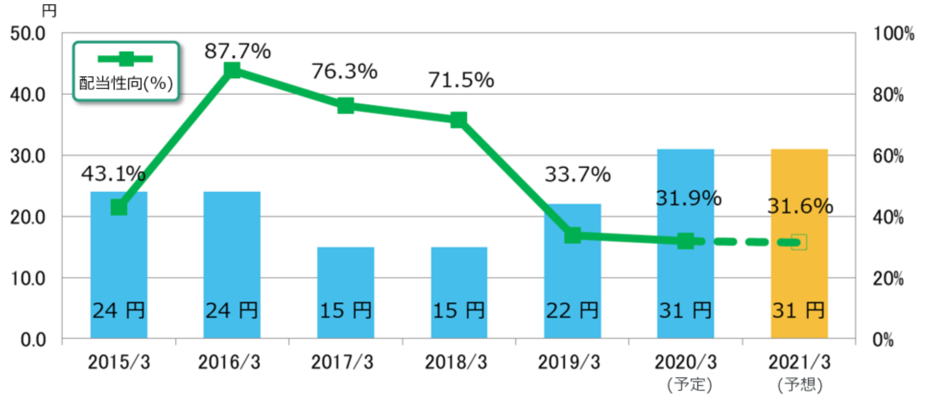
新型コロナウイルスの感染拡大や米中貿易摩擦の長期化など、今後の世界経済の動向は予断を許さない状況が続いています。今後の新型コロナウイルス感染拡大の経過によっては、サプライチェーンの寸断や様々な事業活動の制限など、長期間に渡って円滑な企業活動を妨げる可能性があります。

2021年3月期の通期業績の見通しは上記のとおりですが、この業績見通しは、新型コロナウイルスが上期中に収束することを前提に策定されており、当社グループの業績も第2四半期を底をとして第3四半期からの回復を見込んでおります。従いまして、今後の新型コロナウイルス感染拡大状況により、経済活動の停滞がさらに長期化した場合には、当社グループの業績へ新たな影響を及ぼす可能性があります。今後、開示すべき重大な影響が見込まれる場合には速やかに公表します。

Ⅲ- 2. 配当予想について

年間配当

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE	ROE
2021年3月期（予想）	**31円**	**135億円**	**31.6%**	**4.4%**	**14%**
2020年3月期（予定）	31円	134億円	31.9%	4.7%	14.9%



Anritsu envision : ensure 13 Financial Results FY2019

Copyright© ANRITSU

２０２１年３月期の配当は、業績見通しの達成を前提として、１株当たり年間３１円（うち中間配当１５．５円）を予定しております。

Ⅳ.　5Gサービスのロードマップと当社の取組について

アンリツ株式会社
代表取締役　社長

濱田　宏一

Financial Results FY2019
Copyright© ANRITSU

（ノート部記載なし）

Ⅳ- 1.新型コロナウイルスに関連する当社の取組について

新型コロナウイルス感染症に罹患された皆さまと、ご家族および関係者の皆さまに謹んでお見舞いを申し上げると同時に、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

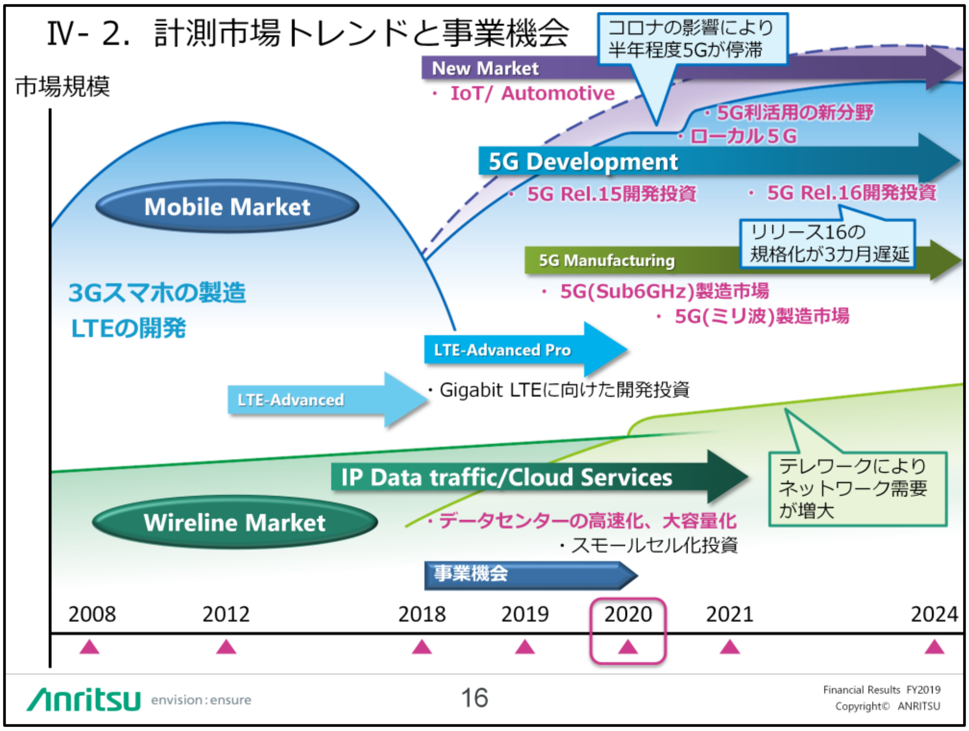
当社グループは、新型コロナウイルス感染拡大が続いている状況を鑑み、グローバルでテレワークなどを励行し、感染対策の強化に努めています。なお、通信インフラの維持、食の安全確保など、重要な社会的責任遂行のため、従業員や取引先さまの健康と安全を最優先に、商品やサービスの提供など、業務を継続しております。

以下は日本での主な取り組みです。

- 本社を含め、特定警戒都道府県指定地域の全拠点において、原則として全従業員を対象にテレワーク・自宅待機を実施
- やむを得ず出社が必要な場合には、検温、うがい・手洗い、マスクの着用などを徹底し、最大限感染防止に努める
- 4月25日から5月10日の間、ゴールデンウィークを延長し休業とする（福島県郡山市の東北アンリツ株式会社は4月29日から5月6日まで休業）

Copyright© ANRITSU

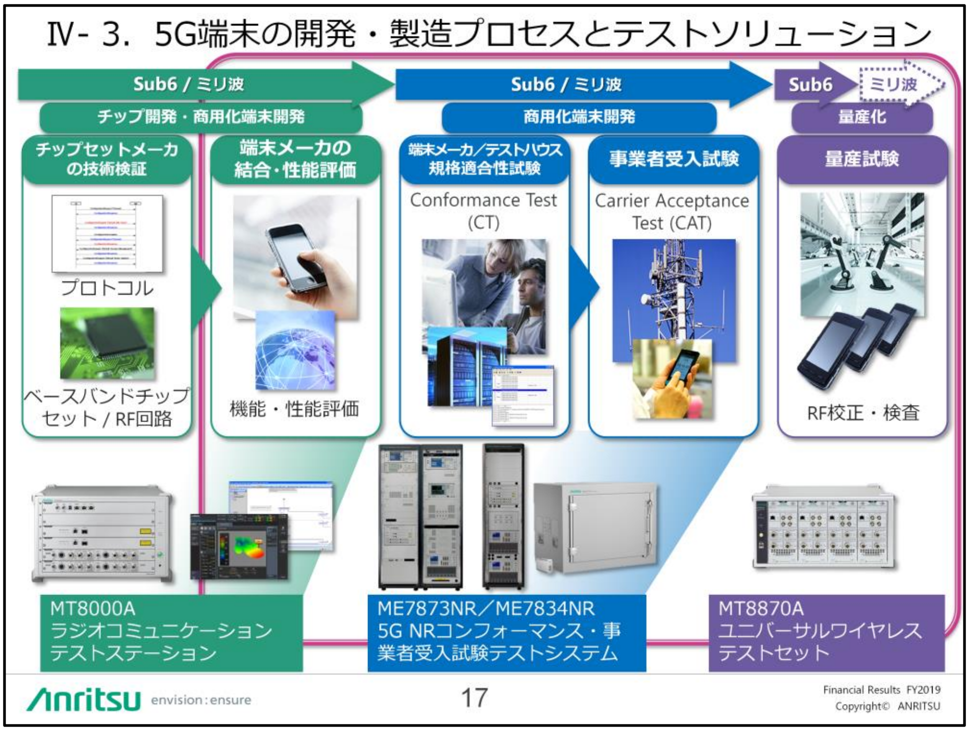
（ノート部記載なし）



モバイル計測市場は、世界各国の5Gサービス開始により、今後も関連需要が拡大していくことが見込まれます。一方、新型コロナウイルスの感染拡大は、サプライチェーンの寸断など事業活動に様々な制限をもたらしています。
新型コロナウイルスの影響はモバイル市場も例外ではなく、企業活動維持のために投資に慎重な姿勢の企業も出てきております。その一方で、5Gの競争環境を勝ち抜くために開発投資をスローダウンしない先進企業も存在しています。

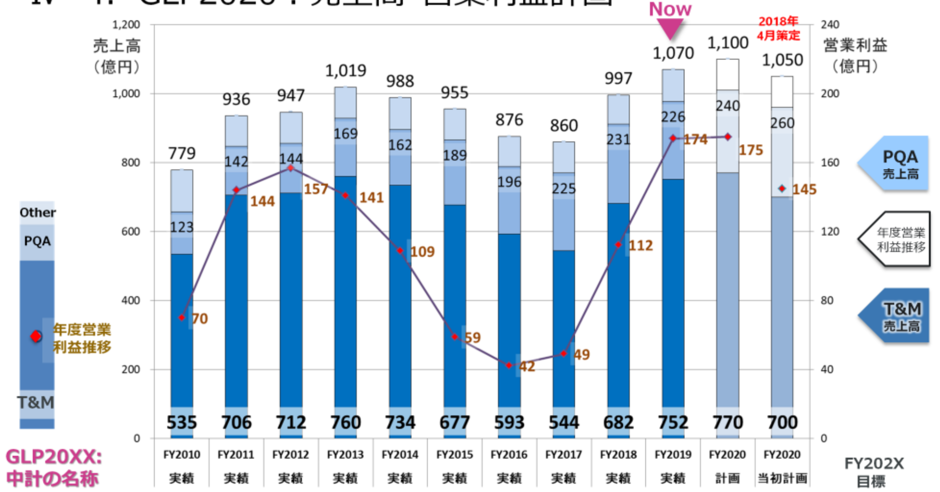
この新型コロナウイルスの感染拡大は、インターネットを社会生活やテレワークに必須のライフラインとして定着させ、さらに地域や企業の成長にネットワークの拡充が重要であることを示唆しました。
中国では停滞した景気の底上げ策として5Gネットワークの拡大計画が出されました。

直近の5Gのサービス展開に関しては、経済活動の停滞によるスローダウンが生じるものの、新型コロナウイルスの感染が落ち着いた地域より5Gサービスの展開およびネットワークの拡充が再開され、遅れを取り戻すように加速されると想定しております。
5Gモバイル市場のピークは、想定通り2023年～2024年頃に迎えると考えております。



5Gサービスの開始に伴い、多数の商用端末の開発が並行して行われるようになり、さらに端末の規格適合試験の需要も急速に立ち上がってきました。
また、各社が端末の量産のための製造工程を構築しており、量産試験の需要も立上ってきました。
これまでは、5Gの初期開発需要が主な投資でしたが、今後は商用化に向けた投資がメインとなってきます。
当社は、5G商用化に向けたフェーズでも最適なソリューションを提供致します。

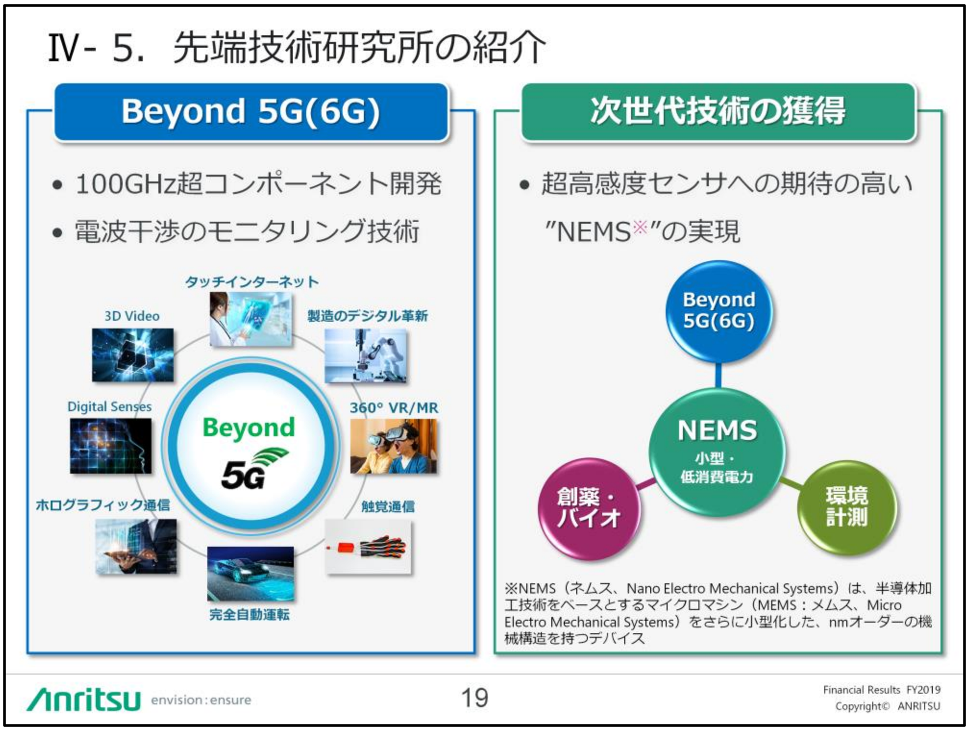
Ⅳ- 4. GLP2020：売上高･営業利益計画



		FY2010	FY2011	FY2012	FY2013	FY2014	FY2015	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020	FY2020	FY202X 目標
営業利益率	連結	9%	15%	17%	14%	11%	6%	5%	6%	11%	16%	16%	14%	18%
	T&M	9%	20%	21%	17%	12%	7%	4%	4%	14%	20%	20%	14%	20%
	PQA	5%	4%	6%	7%	5%	6%	7%	9%	7%	6%	8%	12%	＞12%
GLP計画		GLP2012		GLP2014			GLP2017			GLP2020				GLP202X

Copyright© ANRITSU

GLP2020の最終年度の2020年度に関しましては、計測事業は2019年度に対して売上高18億円（2%）増、PQA事業は売上高14億円（6%）増を目指します。
連結としては2019年度に対して売上高は30億円（3%）増、営業利益は1億円（0.5%）増を目指します。



10年後の社会課題の解決を、計測の面から支える技術を獲得するべく、基礎技術の研究所として先端技術研究所を設立しました。
外部からの研究者を積極的に受け入れ、アンリツの技術力の源を作り、「オリジナル＆ハイレベル」を強化していきます。

取り組む予定の研究テーマは下記の2つです。
1. Beyond 5G（6G）に向けた研究
　①100GHz超の周波数の計測を支えるコンポーネント実現のための研究
　②採用検討中のFull-Duplex技術の実現に必要と考える電波干渉のモニタリング技術の研究
2. 次世代技術の獲得
　小型で低消費電力の超高感度センサを実現するための技術として期待の高いNEMS※の研究

※NEMS（ネムス、Nano Electro Mechanical Systems）は、半導体加工技術をベースとするマイクロマシン（MEMS：メムス、Micro Electro Mechanical Systems）をさらに小型化した、nmオーダーの機械構造を持つデバイス

（ノート部記載なし）